



えほんの紹介

『ぼくのぱん わたしのぱん』

神沢利子/ぶん 林 明子/え 福音館書店

ぱんやさんにならんだおいしそうなぱん。食パン、クリームぱん、バターロール…。聞いただけでもいいにおいがしてきそうです。

というわけで絵本の中のぼくたちも、ぱんを作ることにしました。まず材料はなに？ぱんをふくらませるには何を入れたらよいのかな？と工夫をしながらぱん作りが始まりました。まぜたり、こねたり、ふくらませたり……。最後にどんなぱんが焼きあがったのでしょうか。

また、ぱんはこむぎ粉で作られますが、こむぎはむぎ畑でどんなふうにつくられるのかも絵本の中でさがしてくださいね。



『歯いしゃのチュー先生』

ウィリアム・スタイグ ぶんと え うつみ まお やく 評論社

歯いしゃのチュー先生はとても腕利きでいつも患者がたえません。でも、ネズミですから、ネコやきけんな動物の治療は断っています。

ところが、ある日、キツネが歯が痛いと言ってきました。キツネはネズミにとってきけんな動物です。でもキツネが気の毒になり、チュー先生はおくさんと計画をねって治療してやることにしました。さあ、どんな治療をしたのでしょうか。それは絵本を見てのおたのしみです。

ユーモアとあたたかみのある絵をごらんください。

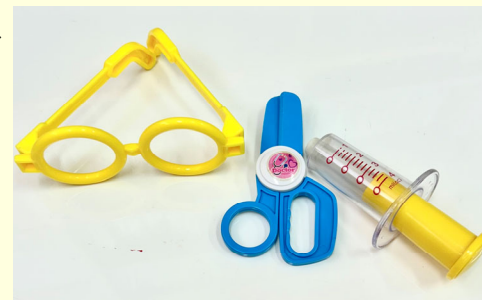


小さなおともだち “腕がいいんです！”

Rちゃんは、いつもおもちゃのお医者さん道具で治療をしてくれます。ひざの痛い人が往診を希望しても、プレイルームの診療室に行かなければなりません。

レンズなしのメガネをかけていて、そのメガネで診ると、どこが悪いかがすぐわかり、「ここです」と教えてくれます。

ハサミで皮膚をジョキジョキ切ったり、太い注射をぶすっと打ったりと大忙し。患者たちはすぐに痛くなくなり、感謝してかえっていきます。とても腕のいいお医者さんですね！



ことばあそび

一つのことばを頭にしてことばを並べます。そのことばを使って小さなお話を作ります。



例① 「おひなさま」

まりつ き さくらもち なのはな ひなあられ おおぞら

大空からひなあられが降ってきて、菜の花を見ながら桜餅を食べて、まりつきをしてあそんだ。

例② 「もものはな」

ないた はら のり もちつき ももたろう

桃太郎が餅つきをして、のりをまいて食べて、はらが痛くなり、泣いた。

みなさんも好きなことばや名前で作ってみてください

季節のわらべうた
♪おちやをのみにきてください
はい こんにちは
いろいろおせわになりました
はい さようなら

春はお別れと出会いの季節です。この歌はもとはなわとび歌ですが、歌いながら手をとったりあつたり、おじぎをしあつたりして遊びます。心をこめて再会を希いながら…。

